

特別支援学校（知的障害）高等部教員養成プログラムの開発

—学部・特別専攻科の授業科目及び現職教員を対象とした高等部教員のためのセミナーの実施報告—

竹林地 毅

（広島大学大学院教育学研究科）

KEY WORDS: 特別支援学校, 知的障害教育, 高等部教員養成

（目的）

特別支援学校（知的障害）（以下、特別支援学校とする。）の高等部教育を担当する教員の継続的な養成プログラムの在り方を検討してきた。

平成 24, 25 年度の学部学生と特別専攻科学生及び、現職教員を対象としたプログラムの実施状況を報告する。

（教員養成プログラムの内容・方法）

1 学部学生を対象とした授業（平成 24 年度から実施）

（1）概要・目的

特別支援学校の職業教育（作業学習）の授業参観、障害者職業能力開発校及び障害者雇用企業の見学、特別支援学校生徒を対象とした技能検定での実習等を通じて得た知見に基づき、知的障害のある生徒の職業教育の現状と課題について、実践的に考察し、職業教育に関する基本的知識を身に付ける。

（2）授業内容（前期・後期）

①講義・演習

- ・知的障害のある児童生徒の職業教育の現状（竹林地毅）
- ・特別支援学校 JST の業務と知的障害のある人の雇用の現状と課題（特別支援学校 JST（就職支援教員））
- ・就労に関する知的障害者本人・家族・雇用者の意見

②授業参観・見学

- ・知的障害者等に対する職業訓練の実際（広島障害者職業能力開発校）
- ・企業における知的障害者の雇用の実際（エフピコ愛バック広島工場）
- ・特別支援学校高等部における職業教育の実際（広島市立広島特別支援学校高等部授業参観）

③実技実習

- ・特別支援学校生徒を対象とした清掃技能・接客技能の指導と実技（広島障害者職業能力開発校、日本ホテル・レストランサービス技能協会）

④技能検定補助実習

- ・特別支援学校技能検定（食品加工）・（喫茶接客）・（清掃）における運営の補助実習

2 特別支援教育特別専攻科学生を対象とした授業（平成 25 年度から実施）

（1）概要・目的

知的障害のある児童生徒のキャリア発達を促す教育について、基本的な考え方を学ぶとともに、就労支援に関する福祉・労働の制度を理解し、実践報告から現状と課題を実践的・实际的に検討する。

（2）授業内容（前期・後期）

①講義・演習

- ・知的障害のある児童生徒のキャリア教育・職業教育をめぐる現状と課題（竹林地毅）
- ・知的障害のある児童生徒のキャリア教育の理論と実際（青森県教育委員会 菊地一文）
- ・知的障害のある人の就労支援（労働行政）（広島労働局職業安定部職業対策課）
- ・知的障害のある人の就労支援（福祉行政）（広島県健康福祉局障害者支援課）

②参加観察

- ・企業における雇用の実際（広島ビルメンテナンス協会加盟の清掃会社 4 社）

③実践報告・協議（後述のセミナーの一部を活用）

- ・高等特別支援学校における教育実践（後述）

3 現職教員を対象としたセミナー（平成 25 年 7 月 28 日～30 日に実施）

（1）概要・目的

知的障害のある生徒のキャリア教育・職業教育の現状と課題について、対談や実践報告をもとに研究協議を深め、キャリア発達を促す創造的な教育実践の方途を検討する。

（2）内容

①対談

特別支援学校におけるキャリア教育・職業教育の現状と課題（国立特別支援教育総合研究所 尾崎祐三、京都市立白川総合支援学校 芝山泰介、竹林地毅）

②実践報告・協議

- ・高等特別支援学校における教育実践（岡山県立岡山瀬戸高等支援学校 金島一顕、北九州市立特別支援学校北九州中央高等学園 河邊啓子 島田雅宏）

③ポスターセッション・振り返りとまとめ

（結果と考察）

1 学生の学び・課題意識の高まり（レポートより）

（1）職業教育・キャリア教育の意義についての理解

挨拶等のスキルや働く意欲を高めること、キャリア発達を促すチャンスは、日頃の教育活動の中にたくさんあることに気づいた。

（2）特別支援学校技能検定の教育的な意義の理解

成功体験や失敗体験を通して成長できる場、生徒同士が応援する等、技能だけでなく人間性も養われている。

（3）企業、行政、学校の連携の意義、課題の理解

職業的な自立を目指し、学校だけでなく行政や企業が連携していること、企業から学校へのフィードバックの重要性に気づいた。

（4）特別支援学校生徒に対する見方の変化

生徒の能力、障害のある人の就労を限定的にとらえていた自分に気づいた。

（5）教師の職業教育・キャリア教育に関する専門性向上と効果的な研修内容・方法

教師の専門性を向上させる必要性を強く感じた。この授業のように企業・行政・学校のそれぞれの取組を客観的に見つめる機会が必要だと思う。

2 授業の企画・運営者の学び

（1）学生自身のキャリア発達

授業やセミナーへの参加による学びなどは、学生のキャリア発達そのものと考えられる。

（2）現職教員と学生が参加する学びの場の効果

相互に学びが深まり・広がる等の相乗効果がある。

本報告内容は、平成 24・25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究課題名「特別支援学校（知的障害）高等部教員の養成プログラムの開発」の一部として実施したものである。

（CHIKURINJI Takeshi）